



公益財団法人名古屋市文化振興事業団 [芸術創造センター]

名古屋オペラ協会

名古屋演奏家ソサエティー

戦の果ての子守唄

〔芸術コラボ〕名古屋市芸術創造センター連携企画公演

名古屋二期会・名古屋演奏家ソサエティー・名古屋オペラ協会による芸術オペラ

# オペラ



〔第一部〕受け継がれゆく唄(日本民謡集〜川口耕平による〜)  
〔第二部〕オペラ「藤戸」

盛綱の求めた太平 母が望んだ太平

平成30年

3.3 土 14:00開演(13:30開場)  
18:00開演(17:30開場)

3.4 日 11:00開演(10:30開場)  
15:00開演(14:30開場)

## 名古屋市芸術創造センター

作曲=尾上 和彦  
原作=有吉 佐和子  
指揮=小原 恒久(第一部)  
奥村 哲也(第二部 藤戸)  
演出=堀口 文成

チケット:1階席 5,000円(指定席)、2階席 4,000円(自由席) / (友の会・障がい者割引):1階席 4,500円・2階席 3,600円

※事業団友の会会員(前売りのみ)・障がい者手帳等をお持ちの方は1割引。購入時に会員証、障がい者手帳等をご提示ください。  
障がい者の方は、ご本人と付添1人まで割引料金でお求めいただけます。

チケット取り扱い:名古屋市主要プレイガイド、芸術創造センター(052-931-1811)、名古屋二期会(052-380-5416)

チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード345-893)

※お近くのチケットぴあスポット、サークルK・サンクス、ファミリーマート、セブンイレブンでも直接お買い求めいただけます。

名古屋市文化振興事業団チケットガイド(052-249-9387)〈平日9:00~17:00 / チケット郵送可〉

※名古屋市文化振興事業団が管理運営する文化施設窓口でもお求めいただけます。

お問い合わせ:芸術創造センター(052-931-1811)〈休館日(原則月曜日)を除く9:00~20:00〉

名古屋二期会(052-380-5416)〈平日10:00~17:00〉

主催:公益財団法人名古屋市文化振興事業団[芸術創造センター]、一般社団法人名古屋二期会

協賛:フチモトミュージックスクール

協力:名古屋演奏家ソサエティー、名古屋オペラ協会

後援:一般社団法人 声藝舎、名古屋市教育委員会、愛知県、愛知県教育委員会、愛知芸術文化協会

助成:平成29年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業



チケットは  
こちらからも  
お買い求め頂けます。



※未就学児の入場はご遠慮ください。





名古屋市長 名古屋市文化振興事業団 [芸術創造センター]

名古屋オペラ協会

名古屋演奏家ソサエティー

A組 3.3土 14:00開演 3.4日 11:00開演 B組 3.3土 18:00開演 3.4日 15:00開演

森本 ふみ子 (二期会)	鈴木 啓之 (二期会)	山口 雅子 (二期会)	水谷 和樹 (二期会)
千鳥	子供	千鳥	子供
本多 信明 (ソサエティー)	石川 能理子 (二期会)	鈴木 俊也 (二期会)	鈴木 裕子 (二期会)

波の精

今橋 満里子 (二期会)	宇野 啓子 (二期会)	沖本 真理子 (二期会)	川口 麻理子 (二期会)	こざわ まりこ (ソサエティー)
小林 恵 (二期会)	近藤 祐子 (ソサエティー)	椎葉 優 (ソサエティー)	鈴木 寿恵 (二期会)	長窪 花日 (ソサエティー)
永田 真弓 (二期会)	野村 伸江 (ソサエティー)	守屋 貴美子 (二期会)	矢内 淑子 (二期会)	

人形遣い:山岸 千代栄

アンサンブル:山本 敦子(ピアノ)、笈 孝也(フルート)、紫竹 友梨(チェロ)、野々垣 行恵、中山 のぞみ(パーカッション)

平成30年

3.3土 14:00開演 / 18:00開演

3.4日 11:00開演 / 15:00開演 <4回>

名古屋市芸術創造センター

名古屋市東区葵一丁目3番27号



オペラ



「芸創コラボ」名古屋市長 名古屋市芸術創造センター連携企画公演  
名古屋二期会・名古屋演奏家ソサエティー・名古屋オペラ協会による芸創オペラ



指揮:小原 恒久 (オペラ協会) (第一部)



指揮:奥村 哲也 (第二部 藤戸)



演出:堀口 文成

受け継がれゆく唄(日本民謡集)

編曲=川口 耕平

舞台監督=太田 けんじ

美術プラン=堀口 文成

照明=古川 靖

音響=内海 豊司

衣裳=加藤 愛

ヘアメイク=長谷川 真也

作曲=尾上和彦  
原作=有吉佐和子

今だからこそ、平成の平安を。~海と戦と愛と~

「水にもぐれば水に祈り、船に乗れば波に祈り、  
ただもう無事に育てと、頼む我が子が諦め切れぬ、諦め切れぬ。」

時は十二世紀。源平合戦により平家滅亡の後のこと。  
備前(岡山県)児島、藤戸の浦では、新領主である佐々木三郎盛綱が領地の見廻りに訪れた。  
伏し拝む民百姓の中、一人の女が盛綱に申し出た。  
「去年の秋の藤戸での武功をたてた物語を聞かせ給え」盛綱はとくどくと武勇談を語り始める。  
日く、海を挟んで平家と対峙し攻めあぐんでいたが、  
海の浅瀬部分を利用し馬を進め、見事戦に大勝したとのこと。  
そして、その手柄でこの地の領主となったのである。  
しかし、その背景には砂浜で出会った子供からの助言があった。  
そして、盛綱は先陣の功を他人に奪われることを恐れ、口封じにその子供を殺してしまった。

盛綱の話聞いた女は、自身がその子供の母であることを告げる。  
そして、我が子を返せと嘆願する。盛綱は、女の鬼気迫る祈りともとれる願いに心打たれ、  
遂に「仇討ちを許す。さあ私を斬れ」と刀を渡す。  
しかし、女は息子の仇を打とうとするが打ち切れない。  
あなたを殺してもわが子は生きて返らぬ、と。盛綱は己の罪業の深さを知り合掌する。  
女は狂乱し、子どもの戻りを幻に見ながら子守唄を唄い続ける。  
それに呼応するように、どこからかあの子供の歌声が聴こえるのであった。

託児サービスのご案内(未就学児の入場はご遠慮ください。)

未就学児(満1歳以上)対象・お子様一人あたり託児500円。2月20日(火)までに芸術創造センターへお電話でお申込みください。名古屋市芸術創造センター(052-931-1811)

[一般発売] 11月1日より名古屋市内プレイガイド他にて発売!